

福祉・ボランティア出前講座内容一覧及び注意事項

講座名	講座内容	目的	対象	注意事項	貸出用具
福祉講話	①福祉（ノーマライゼーション・バリアフリー等）やボランティアについての基本的な話 ②ボランティア活動の始め、活動が始める前の注意事項など	・福祉やボランティアの考え方、必要性を理解する。 ・自分とボランティア活動について考えるきっかけとする。	小学生 中学生 高校生 保護者	・事前に電話やFAXで具体的な項目内容の打合せをします。 ・講師がパワーポイントを使用する場合は、パソコンやプロジェクター、スクリーンなどを学校でご準備ください。	
聴覚障がい者理解	①聴覚障がいの方のお話 ②聴覚障がいとコミュニケーションをとってみよう！	・聴覚の障がいについて理解する。 ・コミュニケーションの大切さを体験で理解する。		・講師は、中途失聴者・難聴者のボランティアグループの方など。 ・ 手話通訳が必要な場合があります。詳細はボランティア・地域貢献活動センターへお問い合わせください。 【問い合わせ】かつしかボランティア・地域貢献活動センター（TEL03-5698-2511） ・講師がパワーポイントを使用する場合は、パソコンやプロジェクター、スクリーンなどを学校でご準備ください。	
手話体験 聴覚障がい者理解	①聴覚障がいの方のお話 ②簡単な手話体験 ③手話コース ④聴覚障がいの方への質問	・聴覚の障がいについて理解する。 ・コミュニケーションの大切さを手話などの体験で理解する。		・講師は、聴覚障がいのボランティアグループや手話を学んでいるボランティアグループの方など。 ・手話体験や手話コースの内容は、学校の希望に合わせますので、申込の段階でセンターに相談してください。 ・その他、筆談やジェスチャーでのコミュニケーションを試す。またはテレビを消音にして観るなどのメニューもあります。 ※②については、手話に関する事前学習は行わないようお願いします。	
盲導犬育成	①盲導犬育成支援活動の説明（当事者など） ②育成活動のDVD視聴など ③盲導犬（リタイア犬など）との交流	・視覚の障がいや盲導犬について理解する。 ・盲導犬育成にボランティアが関わっていることを知る。	一般区民	・講師は、盲導犬育成支援活動をしている団体の方など。講師の数が少ないため、日程調整が必要です。 ・盲導犬同伴の場合は、車で来校します。盲導犬が入室可能な会場である必要があります。 ・盲導犬との交流を行わない場合は、ビデオやDVDの視聴となり、パソコンやプロジェクタースクリーンなどの機材が必要です。	盲導犬育成のビデオ・DVD
発達障がい者理解	①発達障がいの方のお話 ②誰にでもある得意・不得意について ③“ふつう”ってなんだろう？“当たり前”ってなんだろう？	・発達障がいについて知ってもらう。 ・自分の強みと弱みを認識し、強みを活かす方向へ促す。 ・普通やあたり前にとらわれずお互いの違いを尊重し、心のバリアフリーを進める機会とする。	同上 (小学生は3年生以上が望ましい)	・講師は、発達障がいの子育て経験がある団体の方です。 ・講師がパワーポイントを使用する場合は、パソコンやプロジェクター、スクリーンなどを学校でご準備ください。 ・「講義形式以外に、参加者同士話し合い考えるワークショップ形式もあります。 対象の方の年齢等に合わせて内容や表現を変更する必要があるため、事前の打ち合わせをお願いします。	
アイマスク ガイドヘルプ体験	①視覚障がいの方のお話 ②視覚の障がいについて ③ガイドヘルプについて ④アイマスクをして視覚障がい者の体験 ⑤ガイドヘルプ体験	・視覚の障がいについて理解する。 ・体験を通して、視覚障がいの方に対する接し方を学ぶ。		・講師は、お仕事をされている方。仕事をしているため日程調整が必要です。 ・ガイドヘルプ体験では、アイマスクをつけた方をガイドしたり、椅子に座らせる体験をします。 ・アイマスク体験では、独歩や椅子に座るなどの体験をします。 ・体験時間の関係で場所や方法を調整する必要があります。 ・ガイドヘルプ体験だけの実施も可能です。 ・アイマスクは直接肌に触れるため、ハンカチかティッシュペーパーを重ねて使用します。	アイマスク最大40枚 白杖最大20本
車いす体験	①身体障がいの方のお話 ②車いすの使用方法的説明 ③車いすを介助する体験 ④車いすに乗り自走する体験	・身体障がいについて理解する。 ・体験を通して、身体障がいの方に対する接し方を学ぶ。 ・身の回りのバリアについて考える。		・講師は、車いす使用者など。 ・事前にセンター職員が伺い、体験コースについて調整をします。（既に実施したことのある学校の場合省略することもあります） ・講師が車いす使用者の場合は、車いすで入室できる会場をお願いします。やむを得ず階段などの昇降が避けられない場合は、講師の介助を先生方にしていただきます。 ・講師がパワーポイントを使用する場合は、パソコンやプロジェクター、スクリーンなどを学校でご準備ください。※講師によってアイマスクが必要な場合もございます。	車いす 最大6台 ※ボランティア・地域貢献活動センターが運搬します。
高齢者疑似体験	①高齢者の特徴について ②用具の装着の説明 ③高齢者疑似セットをつけて高齢者体験（人数・場所により内容調整）	・加齢による身体的特徴を理解する。 ・体験を通して、高齢者を理解し、接し方を学ぶ。		・講師は、お仕事をされている方。仕事をしているため日程調整が必要です。 ・用具の着脱にかなり時間がかかりますので、一部の児童・生徒に体験させたり、一部用具で多くの児童・生徒に体験させるなどの工夫が必要です。 ・体験して歩くコース（階段など障害物を設定）が必要です。 ※1セット×3名が目安です。	高齢者疑似体験セット 最大10セット ※ボランティア・地域貢献活動センターが運搬します。

福祉・ボランティア出前講座内容一覧及び注意事項

講座名	講座内容	目的	対象	注意事項	貸出用具
高齢者との関わり方	認知症予防ゲームを通して高齢者への関わり方を学ぶ講座 ①認知症について ②認知症予防ゲーム	・認知症と認知症予防の理解を深める。 ・ゲームを通してコミュニケーションの大切さを理解する。	同上 (小学生は3年生以上が望ましい)	・講師は認知症予防ゲームリーダーの資格所有者。 ・会場はゲームができるよう椅子を円になるよう並べてください。 ・ゲームを行う際、全員分の大きめの名札が必要です。	
食事の大切さについて「食育」(朝食を食べましょう！)	①朝食の大切さ ②バランスの取れた食事について ③嚥下困難者への食事について	・朝食やバランス良い食事を取ることで、食事を通した家族とのコミュニケーションの大切さについて理解する。	小学生 保護者 一般区民 高齢者及び施設	・講師は、高齢者施設で食事作りにたずさわっている方。仕事をしているため日程調整が必要です。 ・講師がパワーポイントを使用する場合は、パソコンやプロジェクター、スクリーンなどを学校でご準備ください。	
知的障がいってどんなこと？見て・聞いて・体験して(正しく知ろう!そして友だちになろう!)	①知的障がい・自閉症の特徴について ②知的障がい・自閉症の疑似体験	・知的障がいについて理解する。 ・講座を通して、知的障がいや自閉症の方に対する接し方を学ぶ。	同上 (小学生は4年生以上が望ましい)	・講師はダウン症の子育て経験のある方です。 ・会場は、教室・図書室などをお願いします。	折り紙 軍手
点字(点訳)体験	①点字について ②点字を書く体験 ③点字を読む体験	・視覚の障がいや点字について理解する。 ・体験を通して点字のしくみを理解し、身近な所にある点字に関心をもつ。	同上 (小学生は4年生以上が望ましい)	・講師は、点訳ボランティアグループの方。団体数が少ないため、日程調整が必要です。 ・複数人で教えますが、児童・生徒一人ひとりの手元を見ながらなので、時間がかかります。 ・各自に点字板が必要です。貸出し数について事前に相談してください。	点字版 最大70セット 点字用紙 ※ボランティア・地域貢献活動センターが運搬します。
SSTってなに！	「疲れた!」「寝坊した」「食欲ない!」などの声がでていませんか？一人ひとりの自分の身体の事を知り、成長時期の子どもの心身に元気を取り戻し、生活の一部を考える講座です。 ①ソーシャル・スキル・トレーニング ②睡眠・食事・清潔について	・自分の生活習慣を見直すきっかけづくり	同上 (小学生は5年生以上が望ましい)	・講師は、お仕事をされている方。仕事をしているため日程調整が必要です。 ・講師がパワーポイントを使用する場合は、パソコンやプロジェクター、スクリーンなどを学校でご準備ください。	
認知症の理解	①高齢者の身体的・精神的変化 ②認知症とは ③認知症の方への接し方	・認知症を理解する。 ・認知症の方への接し方を学ぶ。	同上 (小学生は5年生以上が望ましい)	・講師は、高齢者介護にたずさわっている方。仕事をしているため日程調整が必要です。 ・講師がパワーポイントを使用する場合は、パソコンやプロジェクター、スクリーンなどを学校でご準備ください。	
シナプソロジー認知症について	①認知症について ②寸劇やクイズなど ③シナプソロジーの実践	・認知症を理解する。 ・認知症予防についてを学ぶ。 ・認知症の方への接し方を学ぶ。	同上 (小学生は3年生以上が望ましい)	・講師は、仕事をしているため日程調整が必要です。 ・講師がパワーポイントを使用する場合は、パソコンやプロジェクター、スクリーンなどを学校でご準備ください。 ・シナプソロジーでグループを作る時にはご協力お願いいたします。	
国際協力、国際理解について	①支援した外国の歴史について ②外国の子どもたちの様子 ③外国の生活、課題について	・外国の生活、歴史について学ぶ。 ・外国の子どもの状況の理解。 ・現在の課題、これからの支援について学ぶ。	同上 (中学生以上が望ましい)	・講師は、仕事をしているため日程調整が必要です。 ・講師がパワーポイントを使用する場合は、パソコンやプロジェクター、スクリーンなどを学校でご準備ください。	

<講座を進めるうえでご注意いただきたい点>

○体験学習は、複数で同時進行するため、ケガなどの事故が起きないように先生からも児童・生徒に注意喚起を行うとともに、必要に応じて、講師の指示による指導の補助をしていただきます。

○福祉教育、体験学習は、1回のみの講座では効果が薄いので、学年単位で継続性を持たせるような取り組みもご検討ください。

(例) 4年生：車いす体験(校内)
5年生：4年生時の体験をもとに、街の中での体験
6年生：地域のバリアフリーマップ作成

※体験学習の詳細については、『教員向け 福祉×教育ハンドブック (改訂版)』をご参照ください。